

**NEW オートショックAED  
自動体外式除細動器 AED-3200を発売**

AED<sup>\*</sup>は、心臓がけいれんし、血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動等)の心臓に対して電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。オートショックAEDは、電気ショックが必要と判断した場合に、自動で電気ショックを行うため、救助に対する心理的な負担の軽減、迅速な対応を目指したAEDです。当社は2022年に国産初のオートショックAEDであるカラー画面付き AED-3250を発売して以来、オートショックAEDの正しい使用方法の浸透に注力してきました。

本年5月に発売した本製品は、従来の音声ガイドに加え、パネルの各種ランプの点滅・点灯で操作方法やオートショックのタイミングをお知らせします。新たに体動検知機能を搭載し、警告音と音声ガイドで傷病者から離れるよう促すほか、胸骨圧迫が必要な状況で行われていない場合、胸骨圧迫の手順をガイドします。

\*AED(Automated External Defibrillator):自動体外式除細動器。



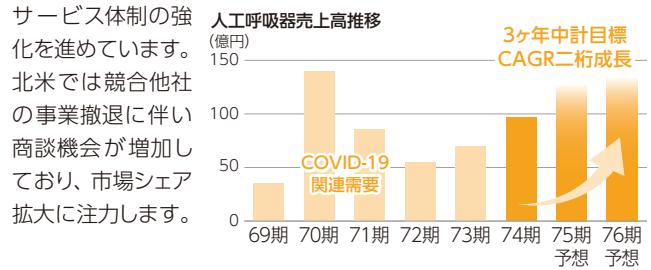
**NEW 日本でNKV-440シリーズ  
人工呼吸器を発売**

本年8月に、米国の日本光電オレンジメッド LLC で開発した人工呼吸器の中位機種モデルを日本で発売しました。本製品は、当社初のタービン駆動式・気管挿管型で、2022年に一部新興国、2024年に米国で発売以降、世界中の患者さんのケアに使われています。ハイエンドモデルのNKV-550シリーズの操作性や機能を踏襲し、小型・軽量化を実現、長時間バッテリを搭載しているほか、タービン駆動により空気配管への接続が不要なため、救命救急室(ER)や集中治療室(ICU)に加え、スペースが限られる一般病棟や院内搬送での使用が可能です。

**人工呼吸器事業をグローバルで強化**

3ヵ年中期経営計画では、人工呼吸器の売上高平均成長率(CAGR)は二桁成長、特に海外では50%以上を目指しています。

日本では自社製人工呼吸器の販促強化、海外では現地生産・販売・サービス体制の強化を進めています。北米では競合他社の事業撤退に伴い商談機会が増加しており、市場シェア拡大に注力します。



**NEW サウジアラビアに販売子会社 日本光電アラビアRHQ LLCを設立**

本年2月、中近東・アフリカ地域における売上拡大を図るため、サウジアラビアに販売子会社を設立しました。本年11月から業務を開始する予定です。当社は、2012年に日本光電ミドルイースト(株)をドバイ(UAE)に設立、2017年に日本光電イーストアフリカ支店をケニアに設立し、中近東・アフリカ地域における販売・サービス体制の強化を図ってきました。中近東・アフリカ地域では、経済成長に伴う医療基盤の整備が進み、今後一層の医療機器市場の成長が見込まれます。本子会社の設立により、サウジアラビアおよび周辺国における代理店サポートなど、当該地域の特性に合わせた販売・サービス活動をより一層強化し、中近東・アフリカ地域におけるプレゼンスの確立を目指します。地域に密着した事業基盤の構築を進め、海外事業のより一層の拡大、高品質かつ先端的な医療機器の提供に努めます。



**NEW インドに日本光電アドバンスドテクノロジーセンタ(株)を設立**

本年9月、医用電子機器用ソフトウェアおよび社内ITシステムの開発強化、スピード向上、コスト削減を目的として、インドに新たな技術開発子会社を設立しました。2026年1月から業務を開始する予定です。2029年3月(予定)までに、米国の日本光電デジタルヘルスソリューションズ LLC、日本光電アメリカ LLCおよび日本光電工業(株)が担っている開発・保守機能を段階的に本子会社に移管・統合します。

本子会社の設立により、中期経営計画で重点領域として掲げるDHS(デジタルヘルスソリューション)製品について、強固な開発体制を構築するとともに、開発スピードの向上に取り組みます。また、各国の医療機器に対する法規制対応に加え、医療機器および社内ITシステムのサイバーセキュリティを強化します。さらに、社内ITシステムの開発・保守体制を整備・拡充することで、コーポレート・デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を加速します。従来、外部に委託していた業務を内製化することでコスト削減を図り、安定かつ強靭な事業基盤を確立します。



日本光電アドバンスド  
テクノロジーセンタ(株)  
取締役 Sakthi Vajiravel  
(兼務 CDX統括部長)